

V 日高振興局

1. 印南町農業士らによる小学生の稲作体験を実施

印南町農業士会（尾曾紀文会長）は、食育活動の一環として、毎年、地域の農家らと協力しながら印南町立稲原小学校で稲作体験を実施している。

3年生から6年生までの学生53名が参加。本年度は5月12日にモチミノリ（もち米）の播種作業を、6月8日に小学校前の水田で田植えを行った。

田植え作業では、印南町農業士会会員や地域の農家の指導の下、移植位置のマーカがついた紐を前に学生が横一列に並び、手で苗を植えた。

初めて田んぼに入る3年生は、最初は泥の感覚に戸惑っていたが、最後には「もう終わり？もっとしたい！」と楽しそうに話していた。

今後は10月上旬に学生による稲刈りを実施し、最後は全校で餅つき大会を行う予定である。印南町農業士会では、引き続きこのような農作業を通じた食育を推進するとともに、農業水産振興課としても食育活動の一環として支援していく予定である。



農業士による播種作業の説明(5/12)



播種作業の様子(5/12)



田植え作業(6/8)

2. 日高町立比井小学校で梅の出前授業を実施！

6月14日、日高町立比井小学校6年生（10名）を対象に、梅の生産者と農業水産振興課職員が講師となり、梅の出前授業を実施した。

この出前授業は、県と県教育委員会主催で農林水産業への理解と郷土愛や食に対する感謝の気持ちの醸成を目的に、平成24年度から実施している。

最初に、当課の植田普及指導員から、梅の生産量や梅の特徴、梅干しの作り方などを説明した。

次に、管内の梅生産者で食育ボランティアである小田美津子氏が梅についての話をした。小田氏は、梅干しはとても健康に良い食べ物だということ、子どもの頃、お腹が痛いときや気分が悪いときに梅エキスを食べた思い出などを話した。

その後、小田氏が冷凍梅を使った梅ジュースの作り方を実演し、説明を聞いた後、児童はひとりずつ配られたボトルに冷凍梅と砂糖を交互に入れ、梅ジュース作りを体験した。また、事前に作っていた梅ジュースや、梅シロップの牛乳割りを試飲した。

比井小学校は海に近い地域であり、農業を営む家庭の児童は少なく、ほとんどが梅ジュースを作ったことがないということだった。体験を終え、児童からは「こんな簡単に梅ジュースが作れるなんて知らなかった」、「自分のジュースができあがったら、いろんな飲み方をしてみたい」などとの感想が聞かれ、梅についての関心が高まったことがうかがえた。



梅ジュースの作り方を説明する
小田美津子氏



梅ジュースづくりの様子